



安全データシート

Copyright, 2015, 3M Company

All right reserved.

本情報は、3Mの製品を適切にご使用頂くために作成したものです。複製ないしダウンロードする場合には、以下の条件をお守り下さい。（１）当社から書面による事前承認を得ることなく情報を変更したり、一部を抜粋して使用しないで下さい。（２）本情報を営利目的で転売もしくは配布しないで下さい。

SDS番号	27-9595-3	版	3.00
発行日	2015/05/14	前発行日	2013/05/01

この安全データシートはJIS Z7253:2012に対応しています。

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称

強力瞬間接着剤 耐衝撃

3M スtockナンバー

JC-2300-0263-9 JC-2300-0264-7 JC-2300-0271-2 JC-2300-0272-0

会社情報

供給者	スリーエム ジャパン株式会社
所在地	本社 東京都品川区北品川6-7-29
担当部門	コンシューマー・オフィスマーケット技術部
電話番号	042-779-2173

2. 危険有害性の要約

GHS分類

引火性液体： 区分 4

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性： 区分 2 A

特定標的臓器毒性、単回暴露(呼吸器への刺激)： 区分 3

水生環境有害性（急性）： 区分 2

水生環境有害性（長期間）： 区分 3

GHSラベル要素

注意喚起語

警告

シンボル

感嘆符

ピクトグラム



危険有害性情報

H227	引火性液体。
H319	強い眼刺激。
H335	呼吸器への刺激のおそれ。
H401	水生生物に有毒。
H412	長期継続的影響により水生生物に有害。

注意書き

安全対策

P210	熱／火花／裸火／高温物体のような着火源から遠ざけること。－禁煙。
P261	粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
P271	野外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

応急措置

P305 + P351 + P338	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズが容易に外せる場合は外して、洗浄を続けること。
P370 + P378G	火災の場合：可燃性液体用の消火剤（粉末消火剤または炭酸ガスなど）を使用すること。

廃棄

P501	内容物／容器を国際、国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。
------	------------------------------------

その他の有害性

組織に急速に付着する可能性がある

3. 組成及び成分情報

この製品は混合物です。

成分	CAS番号	重量%
エチルシアノアクリレート	7085-85-0	70 - 100
エチレン共重合体	不明	5 - 15
メチルアクリレート	96-33-3	≤ 1.0
ハイドロキノン	123-31-9	< 1.0

4. 応急措置

応急措置

吸入した場合

新鮮な空気の環境に移動させる。気分がすぐれない場合は医療機関を受診する。

皮膚に付着した場合

皮膚に付着した場合：すばやく暖かい水に浸し、引き剥がす際に無理な力がかからないようにする。付着物を取り除けない、あるいは唇、口に付着した場合は医療機関を受診する。炎症が続く場合は医療機関を受診する。

眼に入った場合

直ちに多量の水で15分以上、眼を洗浄する。直ちに医療機関を受診する。無理に眼を開けてはいけない。

飲み込んだ場合

口をゆすぐ。気分が悪い時は医療機関を受診する。

予想できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

毒性学的影響についてはセクション11を参照。

応急措置を要する者の保護に必要な注意事項

適用しない。

5. 火災時の措置

消火剤

火災の場合：可燃性液体および可燃性固体用の消火剤（粉末消火剤または炭酸ガスなど）を使用すること。

特有の危険有害性

火災の熱で密封している容器内の圧力が増し、爆発するおそれがある。

有害な分解物または副生成物

物質

一酸化炭素
二酸化炭素
窒素酸化物

条件

燃焼中
燃焼中
燃焼中

消火作業者の保護

水は消火には効果的ではないが、火炎にさらされた容器を冷却して爆発を防ぐため使用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

区域より退避させること。熱／火花／裸火／高温の物体などの着火源から遠ざけること。－ 禁煙。

火花を発生させない工具を使用すること。新鮮な空気ですその場所を換気する。

大量にこぼれた場合、あるいは区切られた場所でこぼれた場合は、粉塵、蒸気の強制換気を行う。

警告！モーターは着火源になる－モーターは漏洩個所に発生している引火性のガスや蒸気に燃焼させ、爆発させる可能性がある。物理的有害性、健康有害性、呼吸保護、換気、個人防護については本SDSの他の項目を参照。

環境に対する注意事項

環境への放出を避けること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

漏洩を止める。漏洩場所を消火泡で覆う。適正な泡形成水性フィルム（A F F F）が推奨される。
ベントナイト、バーミキュライトあるいは市販の無機吸収剤を用い、漏洩物の周囲から内側に向けて覆う。漏洩箇所が乾燥するまで十分に吸収剤を混ぜ合わせる。
吸収剤を加えても物理的危険性や健康および環境影響に関する有害性を有することに留意する。
出来る限り多くの漏洩物を防爆仕様の道具を使って回収する。密閉容器に収納する。
金属製の容器に収納する。
責任者が選択した適切な溶剤を使用して残留物を清掃する。新鮮な空気での換気する。溶剤のラベルとSDSを参照し、安全な取り扱い方法に従うこと。容器を密封する。回収した物質はできるだけ早く廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

子供の手の届かないところに置くこと。熱／火花／裸火／高温の物体などの着火源から遠ざけること。－禁煙。粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。眼、皮膚、衣類につけないこと。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。取扱後は手指をよく洗うこと。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。環境への放出を避けること。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。酸化剤との接触を避ける（塩素、クロム酸等）。蒸気が地上や床をはって着火源に流れ、遠距離引火することがある。

保管

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。日光から遮断すること。
熱から離して保管する。酸から離して保管する。強塩基から離して保管する。
酸化剤から離して保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理項目

許容濃度及び管理濃度

セクション3に表示されている成分名が、以下の表に見当たらない場合は、当該成分についての適切な作業時の許容濃度または管理濃度がないことを示している。

成分	CAS番号	政府機関	許容濃度または管理濃度	備考
ハイドロキノン	123-31-9	JSOH OELs	限界値は未設定	
ハイドロキノン	123-31-9	ACGIH	TWA : 1 mg/m3	皮膚感作性物質
エチルシアノアクリレート	7085-85-0	ACGIH	TWA : 0.2 ppm	
メチルアクリレート	96-33-3	ACGIH	TWA : 2 ppm	皮膚感作性
メチルアクリレート	96-33-3	JSOH OELs	TWA（8時間）：7 mg/m3（2 ppm）	

ACGIH : American Conference of Governmental Industrial Hygienists

AIHA : American Industrial Hygiene Association

ISHL : 労働安全衛生法作業環境評価基準

JSOH OELs : 日本産業衛生学会許容濃度

TWA : 時間加重平均値

STEL : 短時間ばく露限界値

CEIL : 天井値

ばく露防止策

設備対策

切削、研削、研磨、旋削への適切な局排換気を備える。

空気中の有害物質をそれぞれの許容濃度以下に制御し、粉じん、フェーム、ガス、ミスト、スプレーをコントロールするためにも、一般的な希釈換気あるいは局排換気を行う。換気が適切に実施できない場合は、呼吸保護具を使用する。

保護具

眼の保護具

ばく露評価結果に準じた目・顔の保護具を選択・使用する。下記の日・顔の保護具を推奨します。

サイドシールド付安全メガネ

間接式換気ゴーグル

皮膚及び身体の保護具

保護手袋／保護衣を着用すること。

推奨される手袋の材質： ニトリルゴム

ポリエチレン

呼吸用保護具

ばく露状況を評価し、必要と判断される場合には吸入防止装置の一部として、以下の呼吸保護具の中から選択する。

有機ガス及び微粒子に適している半面形あるいは全面形送気マスク。

特殊な利用に際して、マスクの適合性に疑問があれば、保護マスクのメーカーに相談する。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理・化学的性質

外観

液体

物理的状態：

薄い液体

形状、色、臭い

無色透明、強い刺激臭

臭いの閾値

データはない。

pH

適用しない。

融点・凝固点

適用しない。

沸点、初留点及び沸騰範囲

54 - 56 °C

引火点

>=80 °C [試験方法：クローズドカップ法]

蒸発速度

データはない。

蒸発速度

無視できるレベル。

引火性（固体、ガス）

適用しない。

燃焼点（下限）

データはない。

燃焼点（上限）

データはない。

蒸気圧

<=26.7 Pa [試験条件： 23.9 °C]

蒸気密度

データはない。

密度

1.1 g/ml

比重

1.08 [参照基準：水=1]

溶解度

なし。

溶解度（水以外）

データはない。

n-オクタノール/水分配係数

データはない。

発火点	データはない。
分解温度	データはない。
粘度	1.275 - 1.65 Pa-s [試験条件： 23 °C]
揮発性有機化合物	<=10 重量%

10. 安定性及び反応性

反応性

この物質は、特殊条件下では薬品と反応する可能性がある。このセクションの他の項目を参照する。

化学的安定性

安定。

危険有害反応の可能性

危険な重合が起こることがある。 水、アルコール、アミン、アルカリとの接触で、速やかに重合

避けるべき条件

熱。
大量のレジンを一度に硬化させると発熱によりレジンが焦げて発煙を生じるので、50 g 以上のレジンを一度に硬化させないこと。
火花ないし炎
沸点以上の温度

混触危険物質

強塩基
アルカリ金属及びアルカリ土類金属
アミン類
金属粉末
水

危険有害な分解物

物質	条件
知見はない。	

11. 有害性情報

セクション2で区分表示が義務付けられている特殊な成分を含有する場合には、下記の情報と一致しない場合があります。

また、成分の含有量が表示義務となる値以下の場合、成分のばく露が予想されない場合、あるいは製品全体を考慮した場合に、含有成分の毒性情報が、製品の区分、ばく露時の兆候や症状に一致しないことがあります。

毒性学的影響に関する情報

ばく露による症状

組成の試験結果や情報より、下記の健康影響が考えられる。

眼に入った場合

急速に瞼に付着する

激しい眼への刺激：症状には発赤、腫脹、痛み、催涙、角膜の曇り、視力障害を含むことがある。

硬化時に放出される蒸気は眼を刺激する恐れがある。症状は発赤、浮腫、痛み、涙及び眼のくもりあるいはかすみ。

切断、研磨又は機械加工によって発生する粉じんは眼を刺激することがある。徴候・症状は発赤、腫脹、痛み、催涙及び視力低下を含むことがある。

皮膚に付着した場合

急速に、皮膚に付着する。軽度の皮膚刺激：症状/兆候には局所的な発赤、腫脹、かゆみ、乾燥を含む。

アレルギー性皮膚反応（光反応以外）を起こす可能性がある（症状は発赤、腫脹、水疱形成、かゆみを含むことがある）。

吸入した場合

気道刺激：症状は咳、くしゃみ、鼻水、頭痛、鼻と喉の痛みを含むことがある。

硬化時に発生する蒸気は呼吸器を刺激する可能性がある。症状として咳、くしゃみ、頭痛、しわがれ声、鼻および喉の痛みが現れる。

切断、研磨、機械加工によって発生する粉じんは呼吸器系を刺激することがある。徴候・症状は咳、くしゃみ、鼻水、しわがれ声、喘鳴、呼吸困難、鼻と喉の痛み、吐血等を含むことがある。

飲み込んだ場合

胃腸管組織が刺激される可能性がある（症状は腹痛、むかつき、吐き気、嘔吐、下痢を含むことがある）。

毒性データ

セクション3に開示されている化学成分で以下に情報が無い場合は、そのエンドポイントに対して利用できるデータが無いか、分類するに十分なデータが無い場合があります。

急性毒性

名称	経路	生物種	値又は判定結果
製品全体	経口摂取		利用できるデータが無い：ATEで計算。5,000 mg/kg
エチルシアノアクリレート	皮膚	ウサギ	LD50 > 2,000 mg/kg
エチルシアノアクリレート	経口摂取	ラット	LD50 > 5,000 mg/kg
メチルアクリレート	皮膚	ウサギ	LD50 1,243 mg/kg
メチルアクリレート	吸入－蒸気 (4 時間)	ラット	LC50 3.5 mg/l
メチルアクリレート	経口摂取	ラット	LD50 277 mg/kg
ハイドロキノン	皮膚	ラット	LD50 > 4,800 mg/kg
ハイドロキノン	経口摂取	ラット	LD50 302 mg/kg

ATE=推定急性毒性

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

名称	生物種	値又は判定結果
エチルシアノアクリレート	ウサギ	軽度の刺激
メチルアクリレート	ウサギ	腐食性
ハイドロキノン	ヒト及び動物	わずかな刺激

眼に対する重篤な損傷又は眼刺激性

名称	生物種	値又は判定結果
----	-----	---------

強力瞬間接着剤 耐衝撃

エチルシアノアクリレート	ウサギ	激しい刺激
メチルアクリレート	ウサギ	腐食性
ハイドロキノン	専門家による判断	激しい刺激

皮膚感作性

名称	生物種	値又は判定結果
エチルシアノアクリレート	ヒト	陽性データはあるが、分類には不十分。
メチルアクリレート	マウス	感作性あり
ハイドロキノン	モルモット	感作性あり

呼吸器感作性

名称	生物種	値又は判定結果
エチルシアノアクリレート	ヒト	陽性データはあるが、分類には不十分。

生殖細胞変異原性

名称	経路	値又は判定結果
エチルシアノアクリレート	In vitro	変異原性なし
ハイドロキノン	In vitro	陽性データはあるが、分類には不十分。
ハイドロキノン	In vivo	陽性データはあるが、分類には不十分。

発がん性

名称	経路	生物種	値又は判定結果
ハイドロキノン	皮膚	マウス	発がん性なし
ハイドロキノン	経口摂取	多種類の動物種	陽性データはあるが、分類には不十分。

生殖毒性

生殖発生影響

名称	経路	値又は判定結果	生物種	試験結果	ばく露期間
ハイドロキノン	経口摂取	雌性生殖毒性なし	ラット	NOAEL 150 mg/kg/day	2 世代
ハイドロキノン	経口摂取	雄性生殖毒性なし	ラット	NOAEL 150 mg/kg/day	2 世代
ハイドロキノン	経口摂取	陽性データはあるが、分類には不十分。	ラット	NOAEL 100 mg/kg/day	器官発生期

標的臓器

特定標的臓器毒性、単回ばく露

名称	経路	標的臓器	値又は判定結果	生物種	試験結果	ばく露期間
エチルシアノアクリレート	吸入した場合	呼吸器への刺激	呼吸器への刺激のおそれ。	ヒト	NOAEL 非該当	職業性被ばく
ハイドロキノン	経口摂取	神経系	臓器障害のおそれ	ラット	NOAEL 非該当	適用しない。
ハイドロキノン	経口摂取	腎臓および膀胱	陽性データはあるが、分類には不十分。	ラット	NOAEL 400 mg/kg	適用しない。

特定標的臓器毒性、反復ばく露

名称	経路	標的臓器	値又は判定結果	生物種	試験結果	ばく露期間
----	----	------	---------	-----	------	-------

強力瞬間接着剤 耐衝撃

ハイドロキノン	経口摂取	血液	陽性データはあるが、分類には不十分。	ラット	NOAEL 非該当	40 日
ハイドロキノン	経口摂取	骨髄 肝臓	陽性データはあるが、分類には不十分。	ラット	NOAEL 非該当	9 週
ハイドロキノン	経口摂取	腎臓および膀胱	陽性データはあるが、分類には不十分。	ラット	LOAEL 50 mg/kg/day	15 月
ハイドロキノン	眼	眼	陽性データはあるが、分類には不十分。	ヒト	NOAEL 非該当	職業性被ばく

吸引性呼吸器有害性

セクション 3 に開示されている化学成分に対しては、利用できるデータが無いか、分類するに十分なデータが無い。

製品及び成分に関する追加の毒性情報が必要な場合には、本 SDS の 1 ページに記載した住所、電話番号にご連絡ください。

12. 環境影響情報

セクション 2 で区分表示が義務付けられている特殊な成分を含有する場合には、下記の情報と一致しないことがあります。

セクション 2 の分類に関する追加情報が必要な場合は、弊社にお問い合わせください。また、成分の環境中での運命及び有害性は、成分の含有が表示義務となる値以下の場合、成分のばく露が予想されない場合、あるいは製品全体を考慮した場合に、この項の内容と一致しないことがあります。

生態毒性

水生毒性（急性）

GHS 水生環境有害性（急性）区分 2：水生生物に毒性。

水生毒性（慢性）

GHS 水生環境有害性（長期間）区分 3：長期継続的影響によって水生生物に有害。

製品での試験データは無い。

成分についての試験データはない。

残留性・分解性

試験データはない。

生体蓄積性

試験データはない。

土壌中の移動性

データはない。

オゾン層への有害性

データはない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

関係法令に従って、産業廃棄物として自社で処分するか産業廃棄物処理業者に委託して処分する。

14. 輸送上の注意

船舶安全法、航空法の危険物に該当しない。
取扱い及び保管上の注意欄に述べられている一般的注意に従ってください。

15. 適用法令

物質及び混合物に適用する安全、健康、環境の法規制

主な法規制物質

成分	安衛法通知政令番号	法規名	
		P R T R 政令番号	毒物及び劇物取締法
ハイドロキノン	461 (ヒドロキノン)	該当なし。	該当なし。
エチルシアノアクリレート	205 (2-シアノアクリル酸エチル エステル)	該当なし。	該当なし。
メチルアクリレート	6 (アクリル酸メチル)	第1種8 (アクリル酸メチル)	該当なし。

日本国内法規制 (主な適用法令)

消防法：危険物第4類第3石油類
労働安全衛生法：施行令18条の2 名称等を通知すべき有害物
P R T R 法：第1種指定化学物質

16. その他の情報

改訂情報

版の改定

セクション1：情報修正。

免責事項：この安全データシート情報は、発行時において正確であると信じられるものです。当社は、法的な要求事項を除き、安全データシートの記載事項について、製品の使用に伴う損失や災害等を補償するものではありません、本安全データシートの記載内容は、記載されている範囲外の使用、あるいは他の物質と組み合わせての使用では効力を持ちません。したがって、製品が使用目的に合致しているかについては、お客様ご自身でご確認ください。

3MジャパングループのSDSは日本のウェブサイトから入手できます。